

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 2 月 20 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3474500117		
法人名	キャレオス株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう新市		
所在地	福山市新市町新市888		
	電話番号	0847-51-3300	
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 12 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 3 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 6 年 2 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>立地が新市地域の中心部にあり、歩いて行ける範囲にで、新市公民館、歴史民俗博物館等があり、季節の催下のおや、文化に触れる事も出来ます。 また、近くに新市公園もあり散歩のコースになっており、よく散歩に出かけています。 一階に併設してデイサービスも営業しており、多くな行事の時には(敬老会、クリスマス会、パーベキュー等)合同で行い交流も兼ねて皆さん楽しませております。 また、グループホームではその人らしく最期まで過ごせるよう看取りも行っており、ご利用者様、ご家族様が安心して暮らせるよう支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>新市町の中心地にあり、通所介護事業所等が併設された複合施設の中にある。近隣には小学校支所、歴史民俗資料館、老人福祉センター、給食センター、公民館等公的施設が多くある場所である。以前は公民館での行事や庭の桜等のお花見をする等、出かける機会も多くあったが、コロナ禍の為、自粛する状況であり、気分転換や楽しみごとの機会も少なく、室内で楽しめる支援に努めると共に常に寄り添い、会話を多く持ち、一日を楽しく、大切に過ごしてもらう事と共に職員の都合で動くのではなく、利用者主体の支援を心掛け、笑顔で優しく対応する事を全職員が統一したケアをするよう取り組まれている。利用者も9名という事もあり、一人ひとりに細やかに接する事ができている。医療面に関しても協力医との連携も構築されていると共に看護師の職員が常駐している為、日々の健康管理ができていて安心である。又、地域との関わりもコロナ禍である為、運営推進会議は開催できていないが、町内会長や民生委員の声かけがあり、地域の一員としての理解も得られ、地域に根づいたグループホームとなっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は朝礼時に理念の唱和をし、共有している。	企業理念は玄関に掲示し、見る事で再認識に繋がると共に振り返る機会としている。又、ミーティングや申し送り時に確認し実践に向け取組まれている。コロナ禍の前は朝礼等で唱和していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や地域のお祭りなどに出向いて、挨拶や会話を通じて、コミュニケーションをとっている。	コロナ感染予防に為、以前の様に交流は出来ていないが、近くの小学校の夏祭りには行かれた。天気の良い日には散歩に出かけ、近隣の方に出会えば挨拶をされ地域の一員としての交流に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りに参加をしたり、運営推進会議などで交流して、関わっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ化で運営休止になってますが、資料を作成して渡している。	コロナ感染予防の為、会議は出来ていない。中止については電話等で報告すると共に定期的ではないが、現状や取り組み等については書面にて、委員の方には報告し、その中で意見等の把握に努めている。又、町内会長や民生委員の方には声かけて頂いた時には現状報告され意見を頂きサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支所が近くにあり、些細な事でも足を運び、協力関係を築いている。	相談事項があれば、支所が近隣なので即相談に行かれている。その際には現状や取り組み等につて報告し、協力関係は築かれている。又、包括主催の会議が月1回あり、参加し、情報等が得られ連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社主体の身体拘束勉強会を月に1度し、事業所で共有している。	身体拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。身体拘束廃止委員会も法人全体で行い、そこでの内容は各事業所に報告、研修も行き、そこでの内容は各事業所に報告、研修も行き、全職員正しく理解している。不穏な方には見守り重視で対応し、抑圧や制止はしない支援に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会を会社主体で勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見は機会があればその都度話をされる。	コロナ禍の為、訪問制限や時間制限もあるが要望に対しては柔軟に対応し、玄関先でお会いしてもらい。その際に現状を伝える中で意見の把握に努めている。又、電話やライン等でも聞く様にされている。また、3ヶ月毎にホーム便りと共に書面で現状を伝える中でも聞くようにしている。色々な場面での意見等は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを開いて、職員の意見を聞くようにしている。	日頃のケアの中で気が付があれば聞くようにしている。又、申し送りやミーティングの中で聞く機会を持ち、職員の意見は真摯に受け止め反映させている。年2回個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の目標をたててもらい、やりがいをもてるしくみがある。社内研修が充実しておりそれに参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修に参加して、介護の知識のレベルアップをはかり、介護力の向上をめざしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会議に施設から毎月参加して情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人 家族様の要望等しっかり聞いて安心してすごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に面談をよくして、家族様の意見 要望 相談等よく聞いて、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく意見を聞いて、最善のサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の一環として、できる事をしていただきながら、楽しく生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等家族様にもしていただき、御利用者様の状態を共有して、支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもとより、親戚の方や知り合いの方々がいいつでも面会ができるようにしている。	訪問制限があるが、家族の要望には柔軟に対応し、玄関策でお会いして頂き、家族との絆が途切れない支援に努めている。電話の取り次ぎも柔軟に行い家族とお話をしてもらう事で安心感に繋げている。馴染みの場所には、以前の様に出かける事は出来ていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が気軽に会話ができるように、席の配置を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても、これまでの関係は継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様の様子を観察しながら、希望にそった行動をなるべくとるようにしている。	会話時間を多く持ち、その中から個々の思いを汲み取る様にしている。また個別対応時等の忌憚のない話からも聞く事もあり、可能な限り思いに沿うように努めている。食べ物や帰宅願望等の思いが出る。表出困難な方には生活歴から選択史を出し、その時の表情等から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様から聞き取りをして、馴染みの物を持ってきていただき、生活空間を家と同じような雰囲気になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の事を考え、個々のペースに合わせた支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、管理者が家族様と情報交換をして介護計画を作成している。	家族、本人の要望、主治医の所見、職員からのニーズや課題についての意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟且つ現状に即した計画を作成し、家族に説明し、承諾を得ている。見直しは個々の期間で定期的に行われている。又モニタリングは3ヶ月となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1度全体でミーティングをして、意見交換をして介護に反映している、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの行事に参加させてもらい、幅広いサービス、柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に公民館、歴史資料館など散歩のときに行く事があり、地域の方たちと交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診があり状態を把握している。	協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科支援も利用されている。又、訪問看護も利用され週1回の訪問があると共に看護師の職員も常駐しており、日々の健康管理ができていて安心である。協力医も24時間指示が得られる体制である。又、他科やかかりつけ医は通院は基本家族対応であるが、柔軟に通院支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が健康チェックし観察している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院されても、以前と変わらないサービスを継続していけるように、病院関係者とカンファレンスをして支援している、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に話をし、時期がきたらその都度家族様と話をしている。	利用開始時、指針を基に説明し、理解は得られている。やむを得ず、重度化した場合には、主治医、家族、管理者と共に話し合いを行い、その都度家族の意向の確認を行い、各関係者と方針を共有しチームで支援に取り組まれている。体験もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練や水害に対応できる訓練をしている。	年2回、日中を想定し、通報、消火、避難誘導等の火災訓練と、水害等の自主訓練も行い、慌てず速やかに対応できる様、個々の実践力を身につける様取り組まれている。コロナ感染予防の為、地域への周知は出来ていないが、協力体制は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人人格を尊重し、プライバシーを損なわないような対応をしている。	人生の先輩であり、目上の人という事を常に意識し、個々の尊厳を大切に支援をするよう周知している。又、職員間で気付いた時には注意し合い、プライバシーの確保に努めていると共にリモート研修を行い、その後事例を基に個々に勉強もされている。書類に関して的確に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望を日常の会話の中から聞き入れ実現可能な事はするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、入居者の方の状況や状態に合わせて、すごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様からの要望もあり、必要な物はもって来ていただき、その人らしい生活が継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように、目の前で実演しながら、食べていただく事もある。	栄養バランスやカロリー計算されたメニューで、食を促す声かけや食材の話、世間話等しながら、食が楽しみとなる支援に務めている。トロミや刻み、ミキサー食等個々の身体状況に合わせた形態を提供している。又できる方にはテーブル拭きや下膳等してもらい力量発揮の場面作りもされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が難しくなった方でも栄養バランスを考えて、食べやすい高カロリーゼリーなどを食べていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、希望者には往診で歯の掃除をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあつた排泄リズムでトイレ誘導をしている。	個々の時間帯や表情などから把握し、日中はトイレでの排泄に努め、生活習慣や立位、座位をする事で機能維持に繋げると共に気持ち良く排泄できる支援に努めている。立位が難しい人にも2人介助でトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトをおやつに出し、排便をうながしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	本人の体調に合わせて入浴を考えている	週2～3回、湯温や洗顔石鹸等の希望にも柔軟に対応し、入浴が楽しみとなる支援を心掛けている。特浴もある。拒否の場合は声かけの工夫やタイミング等で対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて居室対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と看護師と連携して管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲の事をしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候のよい季節はなるべく散歩をしている。	コロナ禍の為、以前の様には外出支援は出来ていないが、感染予防をし、ドライブや近隣の小学校の夏祭りに出かけられた。又、天候が良い日には出来るだけ、散歩に出かけ外気に触れる機会と気分転換となる支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は職員がしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をするようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家での空間とかわらないように、なじみの物をもってきていただいている。	玄関には観葉植物が置かれている。共有の場にはソファもあり、壁には行事の写真や利用者の書かれた、お習字等が飾られている。又、季節が感じられる装飾品もあり、家庭的な雰囲気となるよう工夫され、落ち着いて過ごせる共有の場となっている。不快な匂いもなく、室温にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話のできる方どうし席がちかくにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と利用者様が安心して住めるように自由に配置や物など持ってっ来ていただいています	テレビ、家具、収納ケース、使い慣れた寝具、また、仏壇を置かれている方もいる。写真やアルバムも持ち込まれ、なるべく自宅に近い環境づくりをされ、違和感なく穏やかに過ごせるよう工夫されている。カレンダーや時計も置かれ時の認識に繋がられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全に設計しており、職員と静かに暮らせるようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

グループホームゆうゆう新市

目標達成計画

作成日：令和 6 年 3 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナもあり、家族会は夏に1度しか出来なかった。	今年度は6月、9月、12月に家族会をする	開催2ヶ月前、4月、7月、10月に計画を立てて、ご家族様に案内を出す。	9ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。